

欧文誌 (Trans. ISIJ) への講演概要 (第 112 回大会) 投稿案内

本会は会員各位の研究成果の発表の一つとして、講演大会を年 2 回 (春・秋) 開催いたしております。編集委員会では当講演大会をより良くするため、欧文誌を通して広く海外からの参加を呼びかけるなど種々検討を重ねております。

ご承知のとおりわが国における鉄鋼生産技術は世界の注目を集めており、その成果及び動向が最も早く把握できる手段は当春秋講演大会およびその講演概要集であります。海外においても当講演内容には非常に関心が高く、本会への講演内容に関する問い合わせは相当の数にのぼっております。

以上のことから本会編集委員会で種々検討の結果、春秋の講演を早い時期に欧文誌で海外に紹介することはたいへん有益であるとのことから、昭和 55 年 1 月発行の欧文誌から講演概要 (英文) を掲載いたしておりますが、海外よりたいへん好評をいただいております。今 112 回 (昭和 61 年 10 月) 大会は、下記により公募いたしますので、奮ってご投稿下さいませようご案内申し上げます。

記

- I. 原稿締切日** 昭和 61 年 11 月 20 日 (木)
- II. 原稿枚数** 本会所定の原稿用紙 1 枚 (図、表、写真を含む)
(お申し出いただければ所定原稿用紙を送付いたします)
- III. 原稿内容** 原稿は講演概要 (和文) の内容とまったく同じものを原則とします。
- IV. 執筆の仕方** 執筆者がタイプされた原稿がそのまま約 80% 縮尺され、オフセット印刷されますので下記ご留意のうえご執筆下さるようお願いいたします。
- 1) タイプライターはカーボンリボンを使用し (ファブリックリボンは不可)、活字は原則としてエリート (12 pitch) で single space (63 行)、2 段打ちにしてください。
 - 2) 図、表、写真は縮尺を考慮し作成して下さい。
 - 3) 英文タイトルは講演申込用紙に記入されたものが英文校閲のうえ講演概要集に掲載されますので、そのタイトルに従ってください。
- V. 原稿提出**
- 1) 投稿のさいは、正原稿をご送付下さい。英文校閲を希望される方のみ、初めにコピー原稿 (副原稿) をご送付下さい。
 - 2) 英文校閲は、特に投稿者が希望される場合を除き行ないません。
- 注) 講演概要投稿後、投稿規程に従って Research Article, Research Note, Technical Report として投稿されることを歓迎いたします。
- VI. 欧文誌掲載** 欧文誌 (Transactions of The Iron and Steel Institute of Japan), Vol. 27 (1987), Nos. 1~5 にわたって掲載されます。
- VII. 原稿送付先** 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階
問合せ先 日本鉄鋼協会編集課欧文誌係 (Tel. 03-279-6021)

編集後記

昭和 55 年に「鋼材の表面処理」が特集号として編集されてから 6 年が経過した。この 6 年間に、鉄鋼業における表面処理技術は、市場・技術ともに大きく変貌した。鉄鋼製品耐食性向上の要望は、合金電気めつきなど新しい製品を開発させた。また、自動車、家電、缶詰などの発展は、表面処理技術を活性化し、生産量を増加させた。春秋の講演大会での研究発表も年々増加し、表面処理関係が毎回 50~80 件発表されている。そこで、最近の研究成果を総括し、今後の展開を期待しこの特集号が企画された。

特集号を編集するにあたり、表面処理特集号編集小委員会は、鉄鋼各社のみでなく大学さらに塗料や化学処理など、関連産業の研究者で構成した。特集号の内容には、現行製品の技術開発に関連する論文とともに、西山記念技術講座「表面処理鋼板の現状と今後の動向」の講師を中心に、各部門の専門家に表面処理の現状と将来展望、更に PVD など新しい分野の解説を依頼し、本特集号が日常の技術研究活動において有効な参考文献になるよう配慮した。

以上のような企画で論文を募集したところ、68 編が

集まった。一冊の予定数を上回つたため、著者の了解もえて、一部の論文は一般号へ振替えざるをえなかつた。また、表面処理鋼板の表面解析に関する論文は、分析関係委員の努力を仰ぎ、本特集号の続編として小特集号にすることになった。

表面処理鋼板は鉄鋼の付加価値を高める点から、技術開発が積極的に進められている昨今、今後この特集号に終わらず一般論文として一層の投稿が期待される。更に、現在、表面技術は電子材料を中心に大きく飛躍している。鉄鋼業においても、鋼板処理のみでなく、物質改質の基本技術として広く発展が期待されており、これら分野でも表面技術関連の論文、技術報告が多数投稿されることを期待する。

昨年は、鉄鋼協会内に亜鉛めつき鋼板部会が設置され、本年 1 月に第 1 回の会合が持たれた。表面処理分野でも、技術交流、討議の気運が高まつてきた。経済環境は鉄鋼業にとり、一段と厳しさを増している今日此頃、この特集号が表面技術の発展に刺激となることを期待し、編集後記としたい。(H. A.)